

TIJ 日本語教育研究会通信

No.44 2011.1.18 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



新年おめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

経済も政治も低迷し、閉塞感が漂っている日本ですが、施設の子どもたちに匿名で贈り物をする「タイガーマスク現象」が、今全国に広がっているようです。また読売新聞社と英国BBC放送が世界33カ国で行った調査によりますと、日本は去年「世界にいい影響を与えている国」の世界第2位にランクされたとのこと。右肩上がりではなくても、明るい成熟した社会を目指したいものです。この記事についての詳細は下記をごらんください。

<http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20100418-OYT1T00861.htm>

今年も2月1日にTIJ文化交流祭りを開きます。今年は学生数が多いので、午前、午後に分けて行います。皆様には午前でも午後でもご都合のいい時間にいらしていただきたいと思ひます。詳しい内容は本号に記載いたしましたので、ご覧ください。

招待状を同封いたしましたので、皆様お誘ひ合わせの上、ぜひいらしてください。

昨年から続けております「上級で学ぶ日本語」文型勉強会報告を掲載いたしました。11課と12課の分ですが、お読みいただき、ご意見をいただきたいと思ひます。

またTIJで日本教育実習コースを受けられた方の修了レポートを掲載いたしました。「初心、忘るべからず」。最初の新鮮な気付きを私たちも忘れないようにしたいと思ひます。

今後の「上級で学ぶ日本語」勉強会については、巻末事務局からのお知らせをご覧ください。

【本号の内容】

1. TIJ文化交流祭りのご招待
2. 「上級で学ぶ日本語」文型勉強会報告
3. 実習コース修了レポート
4. 事務局からのお知らせ

TIJ文化交流祭りのお誘い

今年も TIJ 文化交流祭りを開きます。上級の学生たちが出身国の伝統医療、建築、季節の風俗文化、伝説、料理などの紹介や寸劇をいたします。1年～2年間、TIJで勉強した学習成果をこの機会に発揮したいと学生たちもはりきっています。今年は午前、午後の二部に分けて行います。皆様お誘い合わせの上、ご都合のよい時間にお越しください。

期日 2011年2月11日（金曜日、建国記念日）

時間 10：00—12：00 13：00—15：00

場所 TIJ 東京日本語研修所内（葛飾区新小岩1-17-10）

内容 午前：中医学、中国の建築物、日中季節の風習、儒家思想、陶器、
お正月日中比較、アニメの影響、五岳の紹介、日本文化と猫、
中国に基督教を布教した人、韓国の食べ物
午後：留学生の生活（寸劇）、影絵、中国の伝説、料理の作り方、ダンス

「上級で学ぶ日本語」の文型勉強会の報告

上級で学ぶ日本語 第11課 使いましょう

【A】 ～きり

～してそのままずっと。～したのを最後に次に起こるはずのことが起こらないで予想外の状態が続いている。予期せぬ状態、結果に対する驚き、期待はずれの気持ちを表す。

本来は～するのが自然、普通、当然だが、長い間～

接続：動詞の「た形」 「これ、それ、あれ」

例1：授業中、先生にしかられた彼女は「すみません」と言ったきり下を向いてしまい、その日は一日中何も話そうとしなかった。

例2：（隣人について、警察、TV局などに聞かれたとき）

「お隣の方には去年引っ越してきたときご挨拶をしましたが、それっきり一度も姿を見たことはありません」

類似表現 ～たまま（状態が続いている） ～きり（最後）

彼は先週家を出たきり、帰らない。（帰るのが当たり前だが）

彼は先週家を出たまま、帰らない。（帰らない状態が続いている）

練習例

1 彼は_____きり、二度と帰ってきませんでした。

5年前に家を出て行った 父親とけんかして家を出た

「ちょっと買い物に行ってくる」と言って出かけた

2 1ヶ月前に_____きり、全く_____。

*練習のやり方について考えた。前件を提示して後件を考えさせる、例文全体を一つ提示

しその後は学習者の発想に任せる、会話文として練習するなどが出た。

(会話として)

A: 国に帰った友達とはよく連絡をとりあっているのですか。

B: 一か月前に 空港で別れたきり、全く連絡がとれません。

(前件を提示)

一か月前に最後の一本をすったきり_____。

3 _____が、それきり何の連絡もありません。

どんなことがあったのか場面を提示して文を作っていく

自転車をとられて警察に届けた、定期券を落として駅員に届けた、
アルバイトの面接をうけた、

4 _____のはこれきりにしましょう。

よくないこと、やめたいと思っていること

5 予想外、期待はずれなどの気持ちがはっきりとわかるよう学習者の作成文を具体的に
していくことが必要だと思います。

・彼とは大学を卒業したきり一度も会っていません。

→ ・私たちは同じサークルの仲間でしたが、彼とは大学を卒業したきり
今日まで一度も会っていません。

(決まった言い方)

寝たきり老人 着たきりすずめ

【B】 ～にしては

接続：動詞の普通形、名詞、名詞+である *形容詞は使えない

×安いにしては質がいい

意味：～だから当然～はずだが、それに反して～

～から考えて当然であると思われる程度にない(「～わりに」と同じ)

～にふさわしくなく

例1：中国語の勉強を始めたばかりの頃、先生から「初めてにしては発音が上手ですね」とほめられてとてもうれしかった。

似ている表現：～わりに

* 「～にしては」と「～のわりに」のニュアンスの違いは今回もっとも盛り上がった。

・日本人のわりには発音がうまい

(日本人全体が発音が下手という前提があり、その中では上手いと言っている。

このように言われてもあまりほめられているとは感じられず、うれしくない)

・日本人にしては発音がうまい

(発音が上手いので、日本人であるということが間違いなのではないかということまでほめかされている? このように言われるととてもほめられている感じがする)

(○) 年のわりには若い (×) 年にしては～

練習

- A : あの先生、五十歳なんだって。
B : あら、そう。でも五十歳にしては_____。
場面・・・スポーツ大会、カラオケ、授業中など（*会話の表現、「あら、そう」は女性）
よく動けるね 若いね（本当は40代？） 老けているわね（本当は60代？）
- A : あの、料理学校へいつているんだって。
B : へえ、料理を習っているにしては_____。
この会話をしている場面、人間関係はどんなものなののでしょうか。
手際が悪いね。 おいしくないね。
- A : 今度の講演会、準備に半年もかけたんですって。
B : そう。半年もかけた _____ には たいしたことなかったわね。
- A : モーリスさん、先月、日本へ来たばかりだそうだよ。
B : _____ には _____。
来たばかりにしては 日本のことをよく知っているね。
日本人の知り合いが多いよね。

【C】 ~なり

【C-1】 ~なり

接続：動詞の辞書形 / 動詞のた形（今回は取り上げない）

意味：動詞の辞書形へ接続して

～すると同時にふつうではない動作をした

時間的にととも瞬間的、すぐに、間髪をいれず、という意味

後ろのことが予想外のこと、とても驚いたという話者の気持ち

後ろには具体的・瞬間的なことがくる

(×) 席に座るなりゲームを続けている

例1：(電車の中で) スーツ姿のサラリーマンが席に座るなりゲームを始めた。

例2：制服姿の女子高校生が、席に座るなり化粧を始めた。

練習

- 父は家へ帰るなり _____。
どなり始めました。風呂場に飛び込みました。
着替えもしないでビールを一本一気に飲んでしまいました。
- 先生は教室に入るなり、 _____。
あいさつもせずテスト用紙を配り始めました。
- 彼女は「 _____ 」と言うなり _____。
「わかりません」というなり泣き出してしまいました。
「もうダイエットはやめた」と言うなり冷蔵庫の中の物を食べ始めました。

【C-2】 ～なりの／～なりに

意味：～にふさわしい、～の程度にあった、～の力の及ぶ範囲で

届かないかもしれないけれど、最高ではないかもしれないけれど

例1：作文を書くときには先生や友達が言ったことではなく、自分なりの考えを書いていくことが大切です。

例2：大人にはわからないかもしれませんが、子供には子供なりに考えているものです。

例3：先生のお考えもよくわかりますが、私は私なりのやり方でやってみたいと思います。

例4：がんばればがんばったなりの結果がでます。がんばらなければ、それなりの結果しかできません。(～に応じた)

練習

いずれも、相手に対して自分のどのような気持ちを伝えるかがポイント。

(同じ文であっても謙虚に感じられたり、ひとりよがりと思われたり、相手からの干渉を嫌っていると思われたりする)

- 1 ほかの人にごどう思われようと、私は私なりに_____。
生きていきます。やってみます。がんばります
- 2 努力したら努力したなりの_____。
結果がでるでしょう。(誰が誰に話しているのかを明確に)
- 3 忙しいなら忙しいなりに 連絡の方法があるでしょう _____。
できる範囲でやればいいでしょう。

*形容詞

わからないならわからないなりに、収入が少ないなら少ないなりに、
下手なら下手なりに、できないならできないなりに、

- 4 上手にできたとは言えないが、それなりの_____。
評価をもらいました。 できばえです。味になりました。

中本澄代

上級で学ぶ日本語 第12課 使いましょう

昨年12月に行われた「上級で学ぶ日本語」の勉強会では、下記の文型を取り上げ検討した。

意味や例文はおもに「教師用マニュアル」から引用。

【A】 いったん

意味1 一度、まず／一時的(に)

進行中の行為や動作を一次中断して、他のことを行う

例文 ①ここでいったん休憩して、それからもう一度続けましょう。

②天候が思わしくないから、いったん引き上げましょう。

③いったん戸締りを見に家へ帰ったんですが、会議には十分間に合いました。

①は一般的な例だろう。休憩した後に休憩前に行っていた行為をもう一度行なう。

「いったん」の時間的な長さはあまり長くない。

②も天候が回復した後、もう一度続けることが前提。しかし、天候によっては一時中断ではなく、中止になる場合も考えられる。

③は、「駅に行く途中で鍵をかけたか不安になり、もう一度家に戻ってから、また駅に行く」という点では、①②と同様だが、「会議に間に合った」ことが強調されている。

教科書「使いましょう」では下記のとおり。

- | |
|---|
| 1. いったん_____てから、一時にロビーに集まってください。……………意味1 |
| 2. このお金はいったん_____ておいて、それから使い方を相談しましょう…意味1 |
| 3. _____は、いったん_____と、簡単にやめられない。……………意味2 |
| 4. いったん_____と、決めたからには、_____だ。……………意味2 |

1.2 で作りやすいのは、1が「いったん荷物を置いてから、～」、2が「このお金はいったん銀行に預けておいて、～」ではないかと思うが、この場合、「ロビーに集まった後、もう一度荷物を運ぶこと」や、「金の使いみちの決定後にまた銀行に預けること」にはやや不自然さを感じる。とすれば、「後件部分の行為の前提」という意見のほうが説明しやすい。

意味2 一度～たら、後で変えられない／もう前の状態には戻れない。

「A が起きると／A という状態になると B は避けられない／B の状態・動作が続く」
仮定条件とともに用い、「いったん A たら／れば／と／からには、B」という形で多く使われる。

例文 ①父はとても頑固で、いったん言い出すと、簡単には引き下がらない。

②彼はいったん飲み始めたら、酔いつぶれるまで飲み続けるだろう。

③いったん災害が起れば、大惨事になるだろう。

教科書本文例（意味2の文）

「…人間社会という全く本来の生活環境とはかけ離れた生活パターンの中で生きることを強いられることに変わりはない。そして、 <u>いったん</u> 人間社会で飼育されると、そのうち生存するための本能を失い、…」

【B】 ～あげく

意味 ～した結果、とうとう／～したけれども、結局

「さんざん A したのに、結局 B という望ましくない結果に終わった」

この場合「A した時間」は長く、「さんざん」「いろいろ」「長い時間」とともに用いられることが多い。

○さんざん悩んだあげく、彼と別れることにした。

×あの時、悩んだあげく、彼と別れることにした。

*あげくの果て (に)、そのあげく

例文 ①苦労したあげく、とうとうあきらめてしまった。

②苦労したあげく、とうとう成功した。

③さんざんご馳走になったあげく、家まで送らせてしまった。

意味としては、「望ましくない結果に終わった」とあるが、②の例は、「成功した」という良い結果である。

文としても違和感を覚える。これに対しては「苦労したあげくに、とうとう成功した」ならば違和感はないという意見が出された。しかし、結果がプラスの場合は、「苦労した末に、とうとう成功した」のように、「末に」を使うほうがより自然だという意見もあった。

下記は『日本語文型辞典』の例文。どちらも結果オーライという感じだが、嬉しさよりも疲れた印象がある。

①好きでもない上司のご機嫌を取ったり、家族に当り散らしたりの大騒ぎをしたあげくの昇進であった。

②姉は籍入れないのだの一緒に住まないだの言って親と対立し、すったもんだのあげくによく結婚した。

教科書「使いましょう」

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 二十年間も苦労したあげく、_____。2. _____あげく、何も買わずに帰りました。3. 長い間辛い仕事をさせられてきました。そのあげく、_____。4. 彼は友人に裏切られて商売に失敗しました。あげくの果てに_____。5. _____あげく、_____。 |
|---|

やはり、1,4 に「成功した」という文は作りにくい。勉強会でも望ましくない結果を表す例文が多かった。

教科書本文例

「モルモット、マウス、うさぎ、犬、猿などが、医療技術進歩の目的で、故意に感染、発病させられ、そのあげく、手術台へ送られメスを入れられる。実験に使われる動物は、雑菌に冒されてはいけないなどの厳しい条件があり、特殊な環境で繁殖、飼育される。」

しかし、「さんざん A したのに、結局 B という望ましくない結果に終わった」という意味を考えたとき、「雑菌に冒されないように厳しい条件、特殊な環境で繁殖、飼育したあげく、感染、発病させられる」としたほうが、「あげく」の使い方を理解させやすいのではないだろうか。

【C】 ~ないことには

意味 ~しなければ

「Bする／Bできる／Bになるためには、Aが必要条件である。」

後件には否定文がくる。話者の否定的、消極的な気持ちを表す。

- 例文 ①この点が理解できないことには、先へ進めない。
②気候が穏やかでないことには、この研究はできない。
③もう少し値段が安くならないことには、交渉の可能性すらない。
④毎日練習しないことには、勘が鈍ってしまう。

「Aが必要条件」とすると、導入の際には、②,④は状況説明が必要でわかりにくい。教科書「使いましょう」では、進路、アルバイトなど学生たちにとって身近なテーマで、文を作る学生が多く、その方向で進めると導入しやすい。

- | |
|---|
| 1. 彼が来ないことには、 <u>面接が始められない</u> 。 |
| 2. 体が丈夫でないことには、 <u>(肉体労働の) 仕事ができない</u> 。 |
| 3. <u>文化祭の内容が決まらないこと</u> には、この計画を進めることができません。 |
| 4. <u>進路が決まら</u> ないことには、何をしても面白くありません。 |
| 5. <u>朝、メールを見ないこと</u> には、 <u>一日が始まらない</u> 。 |

また、ここでは、こう言われた場合、日本人なら「ああ、そうだった。」と、ハッとするような気持ちをどう説明できるかがポイントだと指摘が出た。確かに、そのことで「必要条件」の意味合いが理解しやすくなる。その点では、教科書本文は新薬の開発における動物実験についてなので、必要性が理解しやすい文である。

教科書本文例

「医療技術や医薬品を新しく開発しても、動物実験を経ないことには、人間に用いるわけにはいかない。」

【D】 ～たら～たで

意味1 どちらにしても大変だ／問題だ

「Aという望ましい状態になっても、それに付随してBという問題が起こった／起こるだろう」対照的な事柄を取り上げて、どちらにしても同じだという意味。前後に同じ動詞、形容詞を2度繰り返して使う。

- 例文 ①入社したら (入社) したで、苦しいことも多々あった。
②入社したら (入社) したで、苦しいことも多々あるでしょう。
③子供がいたらうるさいが、いなかったらいなくて寂しい気もする。
(子供がいたらいたでうるさいが、いなかったらいなくて寂しい)

意味2 何とかなる／(問題はあがる) さほど困らない。

「Aという望ましくない状態になっても、Bという手段をとる／とればいい」

- 例文 ①失敗したら失敗したで、またやり直せばいい。
②できなかったらできなかったで、次の対応を考えよう。
③できないならできないで、次の対応を考えよう。
④できなかったらできないで、次の対応を考えよう。

教科書「使いましょう」

1. A : 大学合格おめでとうございます。
B : ありがとうございます。
でも、大学に入ったら入ったで、お金がかかって大変。……………意味1
2. A : 雪子さん、約束した時間に来るかしら。
B : まあ、来なかったら来なかったで、なんとかなるよ。……………意味2
3. A : 小林先生、最近よくテレビや新聞に出てるね。
B : そうだね。でも、有名になったら、なったで、付き合いが大変だよ。…意味1
4. A : もっと簡単にお金儲けできないかなあ。
B : そう言うけれど、あつたら、あつたで、大変だよ。……………意味1
5. A : 今度のテスト、心配だな。
B : できなかつたら、できなかつたで、追試を受ければいいよ。……………意味2

教科書本文例

「病気になったらなったで、あえて運命には逆らわないというのであれば、話しは別だが、……」

教科書「使いましょう」に見られるように、「～たら～たで」は、通常、話し言葉で使われることが多く、本文導入の場合、文章での使い方のフォローがしにくい。また、会話練習としても、実際にどういうときに使えばいいのか、学生にとってはわかりにくいのではないかという指摘が出た。

1～3・4では、文末表現に「大変だよ」が使いやすいので、大変になる状況を考えさせて、例文を作らせることもできる。同様に、2，5では、「何とかなる」が当てはめやすい。

その他、話し言葉を書き言葉の文体に書き換えさせるとか、誤用例からどこが間違っているのか、直す時間を設けることが有効だという提言があった。

木村 ゆみ

実習コース修了レポート

日本語教育実習コースを終えて

吉松 眞弓

この夏学期、TIJで教育実習を受けた。

十数年前、都内の専門学校で日本語教師養成・専門実習コースを1年半受け、コース修了後、そのままその学校で日本語教師として2～3年間仕事をしていたことがある。

その専門実習コースでは、講師として高柳先生をはじめ、広瀬先生、阿字地先生、市川先生が授業を担当してくださっていた。仕事を始めてからも、先生方には色々な事を教えていただいた。TIJの開所イベントのお手伝いにも参加した記憶がある。出産と同時に仕事を辞めてからも、TIJのことは気になって時々ホームページをのぞいては、お元気そうな皆さんの活躍を拝見し、嬉しく思っていた。

今年になって、ふと皆さんにお会いしたくなり、思い切ってTIJに電話をかけた。それから、授業を見学させていただいたり、夏学期には教育実習コースを受けたり・・・と十数年ぶりに日本語教育の現場に立たせていただくこととなった。

久しぶりに伺ったTIJは、開所当時の印象と比べて活気に満ちていた。初・中・上級そして一般の多くの学生達が学び、個性あふれる先生方が笑いの絶えない授業をされていた。先生方のご好意により、たくさんの授業を連日見学させていただき、授業の運び方、文型の導入の仕方、絵カードの使用法、板書の仕方、口頭練習のさせ方など、いろいろな事を勉強させていただいた。ふと気づくと導入がどんなふうだったか意識しないまま、その日の文型に入っていたり、学生達と一緒に授業の中に引き込まれて笑ってしまったりしたことが、一度や二度ではなかった。どの先生の授業も、とても自然で、そして明るく楽しく進んで行き、授業が終る頃には、学生はその日の文型で作文まで書けるようになっていた。初級には初級の、中級には中級のそれぞれ授業の違った運び方がある。もちろん学習内容もさまざまで、教師はそれぞれに適切な指導ができるように準備し対応する事の大切さを授業見学を通して先生方から教わった。

全8回の実習も経験した。たくさんの先生方の素晴らしい授業を拝見していたので、私に学生の集中力を引きつけ、個々の学生の理解度を測り授業をまとめ上げることができるのだろうか、実習前には少し不安になっていた。

実習の準備として、まず教材分析をした。教材分析といっても、何をどうしたらいいのかかわからず、ただ繰り返し読み、どのような時に自分は使っているのか、どんな文で使っているのかをよく考えた。そして、担当の先生のご指導を受けるまでに、たくさんの例文を作ってみた。が、どれもこれもしっくりこないものだった。それは、なぜか・・・私の作った文では、学生達はその文法や文型の意味をあまり実感できないのではと思われた。私の例文は、普段の自分達、特に学生達の生活には直接関係のないような文ばかりだった。ただ文を作ることを考えて、この文型の入った文法的に間違っていない文ばかりを作っていた。学生がこの文型を使えるようになるために出す例文、なるほどそうや

って使うんだと、ストーンと入っていく文を作るという目的を置き去りにしてしまっていた。それからは、少しずつ学生の目線に立って、身近なところから題材を拾って文を作る事を心がけた。

教材分析のあとは、教案を作成した。確か、言葉をうまくコントロールできるよう、そして学生の反応や質問なども予測しながら、板書するものも分けて書いたりしたような・・・と古い記憶を頼りに書いてみた。時間配分も難しかったが、分析した文法・文型をまずどのように導入するかが、一番難しかった。押し付けにならないよう、言いたい気持ちにさせる。言いたいと思っている時にぴったりの文型を与える。そういう状況を作りだしたかった。実習前日にはリハーサルもした。絵カードの扱い方、板書の仕方、テープの使い方などの練習をした。実際にやってみると、板書することがまとまっていなくて読みにくかったり、書く場所もすっきりしなかったり、カードをスルスルと落としそうになったり・・・と頭で思い描いていたよりも、実際にやってみると難しかった。これは授業中の自分の動きを確認するためには、必要だと思った。教師が十分に準備をせず、授業であたふたとするのは、学生に対し大変失礼なことだ。

先生のご指導もあり、なんとか第1回目の実習を終えた時には、その授業がよかったかどうかは別として、忘れかけていた充実感で胸がいっぱいになった。でも、それは一瞬のことで、そのあと自己嫌悪感が大きな波のように私を襲った。

その日の反省としては、緊張のあまり声が小さかったこと、頭が真っ白になって細かく言葉を考えていても教案通りにできなかったこと、学生からの質問や発言に対してその場でぴったりとした返答をしたり、その発言を取り上げてみんなで共有するような対応ができなかったことだ。それから口頭練習のさせ方にも課題が残った。おぎなりの、言わせるだけの口頭練習では意味はない。次回の実習では、この反省を生かせるようにしようと思った。そして、毎回1つ1つ自分なりに課題を決めて実習をした。どの回をとっても一つとして、納得できる満足のいく授業はなかった。学生の発言を拾って、クラスで理解できたと思った日は時間が長引き、次を担当される先生に多大なご迷惑をおかけしてしまった。あまり緊張せず、楽しくできた時は自分の説明や発言が多すぎて、言葉のコントロールができなかった。が、七転八起、何度転んでもただでは起きず、何かをつかんで前に進みたい。この経験は今後の私の支えとなることだろう。

いたらぬ私をどのクラスの学生も温かく受け入れ、助けてくれたことに本当に感謝している。実習中、学生達はまじめに予習をしてきては、「先生、何て言って欲しいの?」というような目で私を見つめて、一生懸命に発言してくれていた。学生にわかりやすく楽しい授業ができたかどうか自信はないが、学生の理解と協力のおかげで実習コースを修了することができたとありがたく思っている。

これからは、わかりやすく楽しく、そして自分らしい授業のできる教師を目指し、TIJの各先生方を目標として、謙虚な気持ちを忘れず日々勉強と努力を続けていきたい。

若い大学生の実習生とは違い、頭の固くなった私を優しく見守り、ご指導くださった広瀬先生、市川先生、阿字地先生には、心から感謝を申し上げたい。そして、貴重な授業を快く見学させてくださった先生方にも末筆ながら御礼申し上げたい。

実習コース修了レポート

関 江梨子

今回、T I Jの実習コースを受講しようと思ったきっかけは、単純に日本語教師としてのスキルを身につけたいという気持ちからでした。

市のボランティアとして外国人に日本語を教えるようになって5年目に入り、今春より技能研修生に日本語を教えるという仕事をさせていただくようになり、今まで、教授法について書かれた色々な本を読み、工夫しながら授業を進めてきたつもりでしたが、いつも「これでいいのだろうか」「どうすればもっと早く日本語を話せるようにできるのだろうか」「私のやり方ではまずいのではないだろうか」と様々な不安が湧いてきました。そんな中、6月から10月ごろまで、研修生の入国がないという連絡を受け、この機会に是非自分の勉強がしてみたいと思いました。

はじめは、文法的なことや教案の書き方、授業の進め方を教わるのだろうと思っていましたが、そうではありませんでした。日本語学校の授業というものを今まで見たことがなかった私は、T I Jの授業が私の想像とはあまりにも違っていたのに驚きました。それまで日本語学校の授業というものは、まず文法をやり、それに沿って代入練習や変換練習を機械的にやっているのだろうと私は思っていたのですが、T I Jの授業は「気持ち」をととても大切にするというものでした。

初級の学生たちはもちろん語彙はありません。従って、こちらから語彙や文型を提示していくのですが、ただ単にこの状況の時はこの言い方というやり方ではなく、まず、学生を言いたい気持ちにさせる、そしてその気持ちになったときにぴったりの日本語を提供する、というものでした。

初級の授業では、先生方が学生をその気にさせるため、写真や絵カードは勿論、話し方まで、工夫されていて、思わず私自身も学生の一人になったような感じになってしまいました。全員が同じように進歩していくわけではなく、やはり呑み込みの悪い学生もいるのですが、先生方はそういう学生が授業中傷つかないように、当てる順番や内容に気を配られていたのも勉強になりました。授業を見学させていただき、なんとなくですが、授業の進め方がわかったようなつもりで、実習に入ったのですが、実際自分が前に立ってやってみると、準備してきた例文を忘れてたり、一つの文型練習を一人一人に答えさせたりで時間がかかりすぎたり、板書が見にくかったり、反省点だらけでした。教案準備の段階ではあれもこれもとたくさん写真を用意したりしましたが、数あればいいというものではないということも実習を通して痛感しました。

初級の実習が終了し中級の実習に入るのですが、これまで、ボランティア教室でも研修生の授業でも、中級をやったことがなかったので、初めて中級を見学させていただいた時の驚きは大変なものでした。先生が出される例文が学生の生活に直結していて、とてもわかりやすいものであったこと、また、学生が言わんとする少し変な日本語を的確にとらえ、いちばん自然な形の日本語にして、学生に返してあげるといふことをとても自然にされていたことに本当に驚きました。「こんなこと私にはできないんじゃないか」と不安にもなりました。

中級の教案を作るにあたって、まず分析がとても大事であることがわかりました。

日本語には、同じ事を表現するのに表現の仕方が違うものがたくさんあること、そして、それらの中にはお互いに言い換えが可能であったり、または言い換えができなかったりするものがあるということ、その違いはその表現を使うときの「気持ち」の違いだということに気づかされました。私たちは無意識に日本語で話しているようでも、その中には気持ちがしっかり入っていて、その気持ちが日本語という形をなして外に出て行っているんだと思うと、外国人に、気持ちがわからずに日本語を話せというほうが無理だと、気持ちがわからずに自然な日本語ができるはずがないと思いました。

そして、「気持ち」と日本語を一致させるために、こちらが一方的に例文を出すのではなく、学生と一緒にあって、例文を作っていく、まさにその現場も見せていただきました。

「気持ち」がわかれば、少々変な言い方でも、学生が出すことばは大きく的を外れることはありません。そこでこちらが、自然な日本語にしてあげれば、学生の気持ちと日本語がピッタリと合わさって、その言葉はその学生のものになる。

この実習を通して、「気持ち」が大切であるということ、そして、その「気持ち」を伝えるために大切なものは、授業をするときの「空気」であるということに気づかされました。授業は与えるものではなく、学生と一緒に作り上げていくものだということがわかったことは、私にとって、大きな収穫です。

このことをこれからも忘れずにいたいと思います。

最後になりましたが、授業を見学させていただいた先生方、昼食時にいろいろなヒントをくださった先生方、そして教案指導をしてくださり、大切なことは何かを教えてくださいました広瀬先生、阿字地先生、市川先生に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

実習コース修了レポート

伊藤素美

2年程前より、神奈川県大和市のボランティア教室で教えています。始めは、日本語の教え方に興味があり、60時間の短期日本語教師養成コースに通いました。終了後は日本語を教えるということの困難さを感じ、実際に教えることを諦めましたが、日本語教師の方と知り合うことがあり、せっかく学んだのだから実際に教えてみよう、その方をお願いしてボランティア教室に参加させていただきました。

短期の養成コースでは実習はおろか授業の見学すらなく、教える現場がどのようなものかわからず、ボランティア教室の先生方に教えていただきながら授業を進めていきましたが、これで良いのだろうかと不安もありました。そんななか、ブラッシュアップ講座で講師を勤めてくださった TIJ の先生方の分析力や教えるとはどういうことなのかという考え方がすばらしく、TIJ で実習ができるとわかり、ぜひ、ご指導を受けたいと申し込みました。

授業を見学して、生徒の想像力を働かせ、文型がどんな場面やどんな気持ちで使うのか、というところに学生の気持ちを持って行くために、多様な方法で授業を進め生徒を引っ張

って行く先生方の凄さに感心しましたし、テープを聞いて内容が把握できたかを確認するだけでなく、学生の発音や聞き取りを確実なものにするためには、テープをリピートし、書き取ることが大切だと教えられました。

実習にあたり、広瀬先生と阿字地先生が丁寧にご指導くださり、多くのことを学びました。阿字地先生の「学生の頭が今どう動いているか、口は動いているかどうか、学生を見ながら進みましょう。」と広瀬先生の「こちらは、絵を見せたり、ジェスチャーをするだけ、言葉は学生から出て来ます。」のお言葉は、私の日本語を教えるうえでの指針です。教案は先生方のご指導により、きちんとしたものを作っているのに、いざ実際に教室で教えるとあがってしまい、教案通りに進められず、話すスピートや板書のタイミングも悪く、持ち時間もオーバーしてしまいました。反省ばかりの実習でしたが、この失敗をこれからに生かす努力をしていきたいと思っています。

実習コースは大変でしたが、刺激的でおもしろく、将来の授業の糧となりました。実習をご指導くださった広瀬先生や阿字地先生、授業を見学させてくださった先生方、実習にひょっこりやって来た私にも優しく接してくださった先生方にお礼申し上げますと共に、暖かく受け入れてくれた学生のみなさんにもありがとうございますと言わせてください。

事務局からのお知らせ

「上級で学ぶ日本語」文型勉強会

日時 1月26日(水) 2:00～4:00 13課
2月28日(月) 2:00～4:00 14課
3月25日(火) 2:00～4:00 15課

場所 TIJ 東京日本語研修所

参加ご希望の方は、前日までにTIJにメールまたはお電話でお申し込みください。
TIJ日本語教育研究会通信43号では、1月の勉強会を1月25日とお知らせしましたが、1月26日に変更します。